

桜井北町内会では、令和5年度に「地区防災計画」を策定しました！

地区防災計画とは？

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「共助の力」を育む取り組みです。

計画策定までの流れ

町内会役員、組長、各種団体などが地域の代表として集まり、過去の被災地支援の実績がある認定NPO法人愛知ネットの協力を得て、ワークショップ(話し合い)を行いました。参加者で意見交換を行い、令和6年度以降に防災活動の内容を作成しました。

ワークショップ① 地区の特性の確認

地域の特徴から地域防災を考えるワークショップ(話し合い)を行い、地域防災の理想(あるべき姿)を考え、「**自助と近助で笑顔と命を守るまちづくり**」をみんなのテーマとしました。



ワークショップ② 災害時の課題抽出

自助(日頃の備え)、近助(高齢者避難、隣近所の情報)、地域の活動、避難からテーマを1つ選択し、各グループで問題点と課題の整理を行いました。

【課題】

1. 避難場所
2. 災害時における水の供給
3. 自助の対策、ペットの対応



ワークショップ③ 課題解決に向けての検討

各グループで、1つずつテーマを選択し、課題解決に向けての具体的なアディア出しを行いました。



ワークショップ④ 防災活動メニュー企画書の作成

災害に備えた活動に対して、次年度以降に桜井北町として取り組みたい防災活動メニューの意見を出し合いました。

これをもとに3つの防災活動メニュー企画書を作成しました。



企画書は裏面へ

桜井北町内会でこれから取り組む防災企画

1 飲料水備蓄の啓発活動（家庭内備蓄の啓発）

目的	災害時の飲料水の確保	対象	印内集落 全戸
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回覧板による備蓄の呼びかけ ・給水容器の準備 ・井戸水のMAPを作成 ・水質調査の実施 	協力者	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織役員 ・内容の説明会を実施 ・集落役員、老人会、子ども会にも声掛け



※災害直後は水質が変化する可能性があります。飲用ではなく清掃や雑水として使用してください。

2 ペットの同行避難訓練

目的	ペットは家族の一人であり、災害時も同一行動が取れるように	対象	ペットを飼っている全世帯
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●3年計画で実施 1年目:ペットの調査・飼い主の交流 2年目:共同生活の体験 3年目:災害時の避難場所を明確化 	協力者(役割)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いての講習会



3 避難場所の周知徹底（地震用）

目的	家の倒壊時、ブロック塀の倒壊時の避難ルートを周知	対象	全員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・倒壊しそうな建物の調査 ・避難ルートの検討 ⇒マップの作成 	協力者	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会 ・子ども会 ・老人クラブ



参加者の感想



1月1日の能登半島地震があった直後で、より防災意識が向上しました！



みんなで検討できた。今後も地域活動へ積極的に参加したいと思います！

愛知工業大学地域防災研究センターからのメッセージ

地区防災計画において、必要な飲料水を備蓄しておくことは非常に大事なことです。能登半島地震の教訓を踏まえると、給水車は直ぐには来ない可能性があります。また、避難所について、ペットの視点は大切です。避難スペースの検討や、避難生活のルールも含め、周りの人の理解を得ながら実施できるように進めてください。一方、安全な避難については、地域の危険な場所などを皆で話し合い、避難先や避難方法について、地域の人たちに共有することは大変大事なことです。

来年度も地域課題についての検討を継続し、そして行動に移していただき、桜井北町の地域防災力が向上することを期待しています。